

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成27年3月26日(2015.3.26)

【公開番号】特開2014-115605(P2014-115605A)

【公開日】平成26年6月26日(2014.6.26)

【年通号数】公開・登録公報2014-033

【出願番号】特願2013-37542(P2013-37542)

【国際特許分類】

G 1 0 L 15/10 (2006.01)

G 0 6 F 17/30 (2006.01)

G 1 0 L 25/51 (2013.01)

【F I】

G 1 0 L 15/10 5 0 0 Z

G 0 6 F 17/30 3 5 0 C

G 1 0 L 11/00 4 0 2 K

G 1 0 L 11/00 4 0 2 Z

G 0 6 F 17/30 1 7 0 E

【手続補正書】

【提出日】平成27年2月9日(2015.2.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

同定対象となるコンテンツの入力信号に基づいて、各時間周波数領域における信号の正弦波らしさを示す第1の音響特徴量と、前記第1の音響特徴量とは異なる第2の音響特徴量とを算出する入力信号処理部と、

予め用意したコンテンツの参照信号に基づいて、前記第1の音響特徴量と前記第2の音響特徴量とを算出する参照信号処理部と、

前記入力信号の前記第1の音響特徴量および前記第2の音響特徴量と、前記参照信号の前記第1の音響特徴量および前記第2の音響特徴量とに基づいて、前記入力信号と前記参照信号の類似度を計算するマッチング処理部と

を備える音声処理装置。

【請求項2】

前記マッチング処理部は、前記入力信号と前記参照信号の前記第1の音響特徴量に基づいて、各時間周波数領域におけるコンテンツの信号らしさを示すマスクパターンを生成し、前記マスクパターン、前記第1の音響特徴量、および前記第2の音響特徴量に基づいて前記類似度を計算する

請求項1に記載の音声処理装置。

【請求項3】

前記マッチング処理部は、前記入力信号の前記第1の音響特徴量と、前記参照信号の前記第1の音響特徴量との類似度をさらに算出し、前記マスクパターン、前記第1の音響特徴量の前記類似度、および前記第2の音響特徴量に基づいて、前記入力信号と前記参照信号の前記類似度を計算する

請求項2に記載の音声処理装置。

【請求項4】

前記マッチング処理部は、前記第1の音響特徴量の前記類似度に対する前記入力信号の寄与率よりも、前記第1の音響特徴量の前記類似度に対する前記参照信号の寄与率をより大きくして、前記第1の音響特徴量の前記類似度を算出する

請求項3に記載の音声処理装置。

【請求項5】

前記第2の音響特徴量は、前記入力信号または前記参照信号のスペクトrogramに基づいて算出され、時間軸および周波数軸において前記第1の音響特徴量と同じ粒度を有する

請求項1乃至請求項4の何れか一項に記載の音声処理装置。

【請求項6】

同定対象となるコンテンツの入力信号に基づいて、各時間周波数領域における信号の正弦波らしさを示す第1の音響特徴量と、前記第1の音響特徴量とは異なる第2の音響特徴量とを算出し、

予め用意したコンテンツの参照信号に基づいて、前記第1の音響特徴量と前記第2の音響特徴量とを算出し、

前記入力信号の前記第1の音響特徴量および前記第2の音響特徴量と、前記参照信号の前記第1の音響特徴量および前記第2の音響特徴量とに基づいて、前記入力信号と前記参照信号の類似度を計算する

ステップを含む音声処理方法。

【請求項7】

同定対象となるコンテンツの入力信号に基づいて、各時間周波数領域における信号の正弦波らしさを示す第1の音響特徴量と、前記第1の音響特徴量とは異なる第2の音響特徴量とを算出し、

予め用意したコンテンツの参照信号に基づいて、前記第1の音響特徴量と前記第2の音響特徴量とを算出し、

前記入力信号の前記第1の音響特徴量および前記第2の音響特徴量と、前記参照信号の前記第1の音響特徴量および前記第2の音響特徴量とに基づいて、前記入力信号と前記参照信号の類似度を計算する

ステップを含む処理をコンピュータに実行させるプログラム。